

会 議 録

案 件	第 2 回市貝町自治基本条例町民検討委員会作業部会		
日 時	平成 28 年 8 月 3 日（水）17:00～18:45	場 所	大会議室
出 席 者	部会員 11 名、事務局 3 名	傍 聴 者	0 名

内 容

1 開会【進行：事務局】

2 あいさつ

（部会長）：作業部会は試行錯誤と手探りの連続だが、部会員の皆様には集まっていただけで助かっている。前はグループに分かれてコミュニケーションを主目的とした活動を行ったが、今回は先を見据えて前文に盛り込みたいキーワードや市貝の魅力を議論し、次回あたりには皆の前文案を持ち寄り合わせて形としたいと考えている。特に学生の皆さんにはわからないことがあっても仕方がない。畏まらずに思いのたけをぶつけてもらいたい。

3 議題

- ・ 今回の基本的な活動方針を委員長が説明した後、グループワークに移行した。模造紙にそれぞれの意見を貼りグループ全体で意見の整理を行い、まとめるというやりかたを採用し、二つの議題を時間的に区切ることなく議論した。なお、共通のテーマは与えられたが、議論の仕方はそれぞれのグループに任された。

○グループワーク

グループ A （部会員 6 名）

（内容）

- ・ 最も多く指摘されたのは自然の豊かさ、美しさである。
- ・ 町の PR 力が弱く、「影が薄い」という印象を脱却しきれていない。
- ・ 自治会など地域のつながりが強い一方、裏を返せば排他的である。
- ・ 交通面では宇都宮へのアクセスの良さが指摘されたが、その一方地域の商業が弱いのも事実である。
- ・ 行政が子育てに力を入れているが、子どもが遊ぶ施設が乏しい。
- ・ 南部地域と北部地域で人口のバランスがよくない。
- ・ 町民が消極的な傾向がある。ボランティアのような市民活動に乏しい。
- ・ 芝ざくら、武者絵、サシバの存在。
- ・ 「いちがいまち」という風に濁った発音で呼ばれてしまうのが悲しい。条例名または条文に平仮名で「いちかいまち」を入れてはどうか。

グループB（委員5名）

（内容）

- ・いいところよりも課題のほうが目立ってしまう。
- ・町づくり、施設づくり、行事など総じて中途半端でコンセプトが見えない。
- ・町づくりに中長期的な視点が不足している。（ただし、町長や議員に任期がある以上、方針が変わるのは仕方ないという意見もある）
- ・行政主導ではなく、町民自身が主体となった取組が必要である。
- ・こちらも自然の豊かさについて多くの指摘があったが、その一方で鳥獣被害が拡大しており、この状態が続けばサシバ主体の町おこしにも危機が訪れるかもしれない。これまで通りサシバでいくのか、武者絵を主体にするか決断しなくてはならない。また、「栃木県内であればどこにでも豊かな自然はある」という意見もあった。
- ・市貝町には花王の工場があるが、地元商工業のブランド力の低さは問題である。おみやげとして人に渡せるものが少ない。
- ・伝統や歴史、文化は他市町と遜色のないものは持っているので、自治基本条例前文において「課題から見つけるこれからの姿」のような展望を入れ、インパクトのある前文に仕立てれば、「今まで通り」ではないよい条例になるのではないか。

（部会長）：二つのグループで共通した話題として、「前文のありかた」というものがあった。手元の資料「久慈市議会基本条例」を見ていただきたいが、前文でこの条例の通称名を「久慈市議会じえじえじえ基本条例」と定め、方言つまり自分たちの言葉で意志を主張するものにしている。今の時代はこうしてあえて崩すことが普通になっている。次回作業部会では前文を作成していきたいが、無難なものを目指すよりは、例えば「サシバのサっちゃん基本条例」と題してサシバのサっちゃんに語らせるというスタイルは効果的に思える。先ほど鳥獣被害でサっちゃんを見直す必要があるかもしれないという意見があったが、これから10年、20年サっちゃんを推していくと決心するのであれば、自治基本条例でもサっちゃんを前面に押し出し、前文だけでなく条文もサっちゃんに語らせてもいいのではないか。サっちゃんやイツちゃん、カイちゃんの口調はあまり決まっていないということなので、その口調も含めて考えてみてはどうか。今回はこのようなコンセプトのもとで前文の作成に移ってみたい。各々前文の内容を考えてくることを宿題とする。

6 その他

事務局からサシバの里いちかい夏祭りへ学生部会員を招待する旨の説明とゆるキャラグランプリでのサシバのサっちゃんへの応援のお願いを行った。

7 閉会

以上、会議の概要について記録いたします。
その他詳細については、会議資料をもって会議録とします。



